

(広報資料)



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



令和3年5月28日  
京都市保健福祉局  
(担当 健康長寿企画課 222-3419)

## 産学公の連携による医療、介護等の統合データ分析事業の推進について (令和2年度の分析結果と令和3年度の取組)

京都市（以下「本市」という。）では、疾患の発生状況や、その予防・治療・介護の実態を明らかにし、健康寿命の延伸に活かすことのできるエビデンスの収集を図ることを目的に、医療レセプト（※）、健診結果、介護レセプト（※）等の統合データ（以下「統合データ」という。）を分析する事業を進めています。

この度、民間企業の協力のもと、国立大学法人京都大学（以下「京都大学」という。）とともに、肺がんや生活習慣病に係る共同研究を実施することとしましたので、お知らせします。

※ 医療機関や介護サービス事業者が保険者に提出する月ごとの診療や介護サービスの報酬明細書

### 記

## 1 共同研究の実施について

### (1) 背景・目的

本市では、令和2年度に、医療、介護等の統合データ分析事業として、上述の目的のため、本市が保有する統合データを用いたモデル的な分析として、後期高齢者の「大腿骨近位部骨折」を京都大学に委託のうえ取り組みました。

令和2年度の分析結果の概要は、別紙のとおりです。

令和3年度は、本市の費用負担なく事業の推進を図るため、民間企業の協力のもと、京都大学との共同研究により、統合データの分析に取り組みます。

### (2) 期間

令和3年5月～令和4年3月

### (3) 研究内容

#### ア 肺がんの研究

(協力：アストラゼネカ株式会社、株式会社ヘルステック研究所)

- ・ 肺がんの実態（発生状況、治療実態等）や治療内容等の違いによる予後（死亡率、治療費等）等の研究

## イ 生活習慣病の研究

(協力：東和薬品株式会社，TIS株式会社，株式会社ヘルステック研究所)

- ・ 生活習慣病の実態（発生状況，治療実態等）等の研究

### <参考>

#### ○ 本市，京都大学，民間企業の役割分担

実施主体		役割
京都市		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分析テーマの検討・設定</li><li>・ 統合データの京都大学への貸与</li><li>・ 分析結果の公表</li></ul>
京都大学		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分析テーマの検討・設定</li><li>・ 統合データに基づく分析</li><li>・ 分析結果の本市への報告</li></ul>
民間企業	アストラゼネカ株式会社	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分析テーマの検討・設定</li><li>・ 分析に必要な費用や人員の確保への協力</li></ul>
	東和薬品株式会社	
	TIS株式会社	
	株式会社ヘルステック研究所	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 共同研究の実施に向けた京都大学・企業間のコーディネート</li></ul>

※ 分析テーマの検討・設定は，京都市，京都大学，民間企業の三者が共同で行います。

※ 本市が構築した統合データは，令和2年度と同様に京都大学が責任をもって管理することとします。

#### ○ 御協力いただく民間企業について

各企業の詳細は以下のURLを参照してください。

- ・ **アストラゼネカ株式会社**  
<https://www.astrazeneca.co.jp/>
- ・ **東和薬品株式会社**  
<https://www.towayakuhin.co.jp/>
- ・ **TIS株式会社**  
<https://www.tis.co.jp/>
- ・ **株式会社ヘルステック研究所**  
<https://www.htech-lab.co.jp/>

#### ○ 研究テーマについて

- ・ **肺がん**

我が国において，生涯のうちに約2人に1人ががんに罹患すると推計されてい

ます<sup>1</sup>。昭和 56 年以降、がんは死因の第 1 位であり<sup>1</sup>、年間約 38 万人<sup>2</sup>ががんで亡くなっています。

とりわけ肺がんは、我が国の男性のがんによる死因の第 1 位、女性の第 2 位にあたり<sup>3</sup>、主要な死因の 1 つといえます。肺がんの約 35.7%は既に遠隔転移（※ 1）した状態で発見され<sup>4</sup>、5 年相対生存率（※ 2）は 41.4%と他のがんと比べても低い<sup>5,6</sup>ことが特徴です。

本市においても全死因の約 29%にあたる年間約 4300 人ががんで亡くなり、うち約 930 人が肺がんで亡くなっています<sup>7</sup>。本市の肺がんの標準化死亡比（※ 3）は男性で 106.2、女性で 116.4 と全国と比較しても高い水準にあり<sup>3</sup>、健康長寿の実現に向け、肺がんの予防や早期発見・早期治療の重要性は大きいと考えられます。

#### ・ 生活習慣病

代表的な生活習慣病の 1 つである糖尿病が強く疑われる者の割合は全国で男性 19.7%、女性 10.8%、高血圧症に相当する収縮期血圧（※ 4）の者の割合は全国で男性 29.9%、女性 24.9%と推計される<sup>8</sup>ように、生活習慣病は身近な疾患です。

初期のうちには自覚症状が現れにくいですが、主要な要介護理由である認知症や脳血管疾患<sup>9</sup>との関連や主要な死因である虚血性心疾患<sup>2</sup>等との関連が指摘されており、生活習慣病の予防や早期発見・早期治療は市民の健康寿命の延伸に向けた喫緊の課題です。

※ 1 がん細胞が最初に発生した場所から血管やリンパ管を通じて別の臓器や器官に移動し増えることで、一般的にがんが進行した状態を指す

※ 2 性別・年齢等の影響を補正した、診断から 5 年後に生存している確率

※ 3 標準的な年齢構成から計算される期待死亡数と実際の死亡数の比で、100 以上の場合は全国平均よりも死亡率が高いと判断される

※ 4 いわゆる「上の血圧」

1 がん対策推進基本計画（平成 30 年 3 月）

2 令和元年人口動態統計月報年計

3 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

4 平成 29 年全国がん登録 罹患数・率報告

5 全国がん罹患モニタリング集計 2009-2011 年生存率報告

6 独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成 22 年度報告書

7 平成 30 年京都府統計書

8 平成 30 年国民健康栄養調査

9 令和元年国民生活基礎調査